



文書館

レキシ
ノオト

「音」で読み解く
防長の歴史

♪ 12

「うたのほん 下」（教科書文庫16-26）

生活ノオト④

唱歌・音楽の教科書

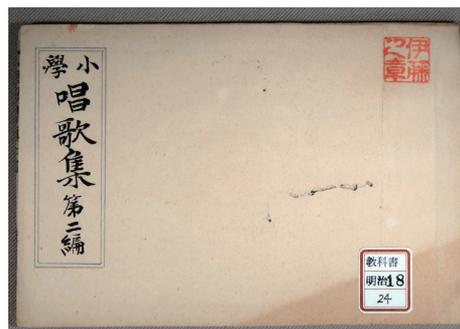
【小学唱歌集】（教科書文庫明治18-24）

明治5年（1872）の学制発布により国民皆学がめざされ、音楽教育についても小学校に「唱歌」、中学校に「奏楽」が設けられました。しかし、教材となる教科書はもとより、指導者も指導法も整っていなかったため、「当分之ヲ欠ク」と、その実施は見送られました。

学校における音楽教育をいかに進めたらよいか、その準備が本格化するのには、明治12年に文部省内に音楽取調掛（後の東京音楽学校）が置かれてからです。その任に当たったのは伊沢修二でした。彼は、西洋の音楽を取り入れつつ、従来の日本の音楽と融合させた、わが国独自の音楽の創設を目指しました。

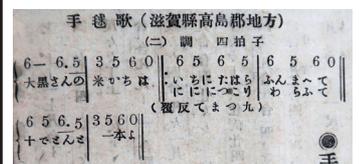
海外の音楽教育の視察や、お雇い外国人メーソンの協力を得て、ようやく出来上がった最初の唱歌の教科書が「小学唱歌集」です。明治14年に初編、16年に第2編、さらに17年に第3編が刊行されました。全92曲のうち多くの多くが外国の曲からメロディーを借り、それに文語調の歌詞をつけたものでした。

今もよく歌われている曲で言えば、初編掲載の「蝶々」はスペイン民謡、「見渡せば」（現在は「むすんでひらいて」の曲として有名）はルソー作曲、「蛍（蛍の光）」はスコットランド民謡です。第2編の「霞か雲か」はドイツ民謡です。



【尋常小学読本唱歌】（斎藤家文書77）

明治36年に国定教科書制度が定められ、各教科において順次、国定教科書が作成されましたが、唱歌については作成されませんでした。

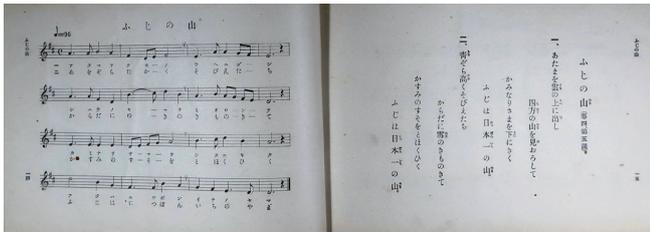


「数字譜」
（音楽雑誌第56号今井家146）

明治から昭和前期の楽譜の中には、五線譜ではなく、数字で書かれたものがあります。これは「数字譜」と呼ばれ、数字で音階が表されています。

- 1……ド
- 2……レ
- 3……ミ
- 4……ファ
- 5……ソ
- 6……ラ
- 7……シ

高音には字の上に「・」を、低音には字の下に「・」を付けました。また、休符は数字の0で表しました。



明治43年、国定教科書に準ずるものとして「尋常小学読本唱歌」が作成されました。この中には「春がきた」、「ふじの山」、「われは海の子」など、現在私たちが「唱歌」と聞いて思い浮かべる曲が収められています。先に出された、「小学唱歌集」とはことなり、ほとんどが、日本人の作曲家により新しく作られた曲でした。



【唱歌と童謡】（教科書文庫大正15-3）

「唱歌」と「童謡」は混同されがちですが、「童謡」は、「唱歌」が徳目や知識習得の手段に偏り、芸術性に欠けた点を批判し、子供たちに新しい歌を与えようとする「童謡運動」から生み出されたものでした。

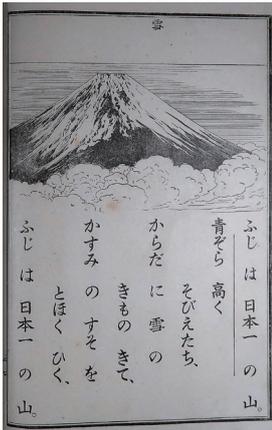


この動きは大正期に見られ、北原白秋、野口雨情、西条八十らの詩に、弘田龍太郎、山田耕筰、中山晋平らが曲を付けました。左の史料は「ハクビ小学

唱歌」です。その詩の多くを書いている海野厚は、この時期の童謡作家の一人で「背くらべ」や「おもちゃの兵隊」など、今も歌い継がれている童謡を残していることで知られています。

【「尋常小学読本唱歌」と「尋常小学読本」】

ところで、この唱歌の教科書は「尋常小学読本唱歌」と、少し違和感を覚えるタイトルとなっています。一方、「尋常小学読本」という国語の教科書もあります（河崎家文書3329）。



五ふじの山
あたまを雲の上に出し、
四方の山を見おろして、
かみなりさまを下にきく、

実は、「尋常小学読本唱歌」に載せられた唱歌は、「尋常小学読本」で学習する内容と一致しています。例えば「尋常小学読本唱歌」の「ふじの山」（写真上）には「巻四、第五課」と書かれていま

すが、これは「尋常小学読本」の4巻の第5課の学習内容（写真左）に対応していることを示しています。

このように、「尋常小学読本唱歌」は、歌を歌として楽しむというよりは、「尋常小学読本」を学習する上での補助教材と位置付けられていました。

この時期、様々な唱歌が作られました。明治34年に山口県師範学校が発行した「新編唱歌萃錦」には1300を超える曲が収められていますが、それらは「儀式唱歌」、「修身唱歌」「地理歴史唱歌」「四季唱歌」「遊戯唱歌」などに分類されています。

徳目習得や知識習得の手段の一つとして、文章を覚えやすいメロディーにのせて口ずさむのが唱歌でした。

「尋常小学読本唱歌」は、翌明治44年刊行の「尋常小学唱歌」へ引き継がれ、私たちのよく知る文部省唱歌となります。

【山口県小学唱歌】（滝口明城文庫705～711）

「山口県小学唱歌」は昭和5年に、山口県教育会が唱歌の教科書として尋常科、高等科各学年1巻ずつ刊行したものです。唱歌には国定教科書が無く、文部省の検定を受けた教科書、もしくは文部省編纂の教科書から



選ぶが、それ以外の曲を教室で教える際には、道府県知事の認可を得なければなりません。この「山口県小学唱歌」により、唱歌選定の手間が省かれ、県内の各小学校における唱歌授業の統一が図

られました。

【国民学校の音楽の教科書】

（教科書文庫昭和16-25・16-26・17-42・18-63～65）

昭和16年、尋常小学校は国民学校初等科と改称されました。唱歌は芸能科音楽となり、教科書も初めて国定となりました。戦時下の影響を受けた内容となっており、戦後になって墨の塗られたものもあります。

